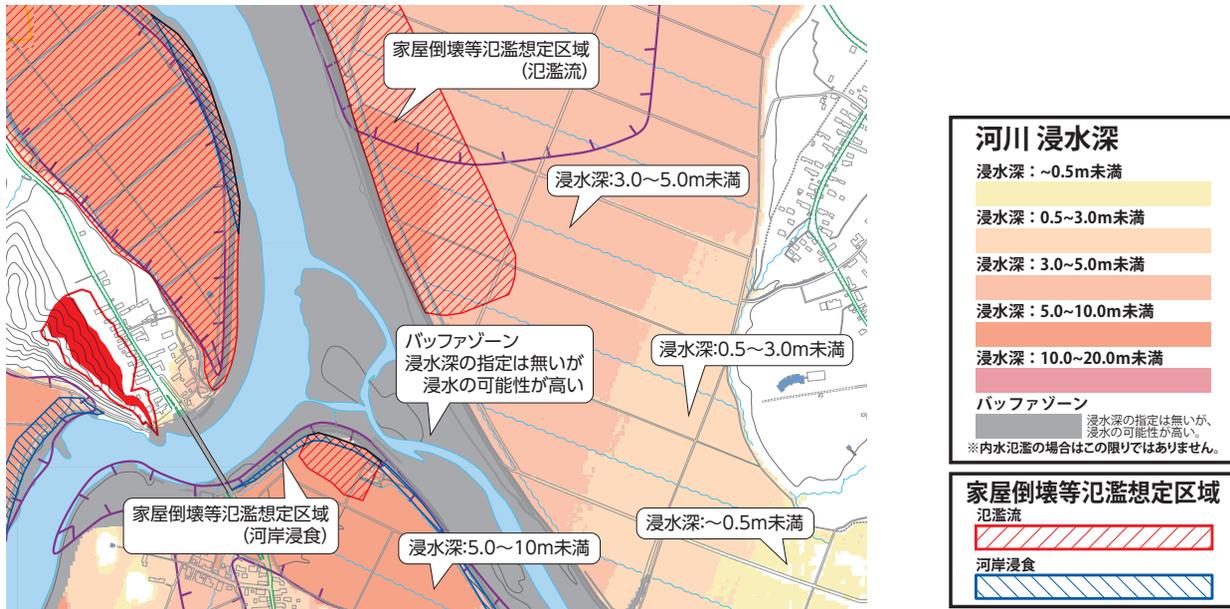


洪水ハザード情報の見方

防災マップの洪水ハザード情報は、想定される最大規模の降雨（1年の間に発生する確率が1/1000以下の規模の大きな降雨）を基準として掲載しています。発生する確率は低いですが、連続して発生することもあります。洪水ハザード情報は、浸水が想定される区域と浸水の深さを色別に表示しています。自宅などから避難先までの間にどのような危険があるのかシミュレーションしてみましょう。



浸水した場合の深さの目安



●歩行移動

一般的に膝の高さである50cmを超えると水の中を歩行することが困難になる可能性があります。

●自動車移動

30cmを超えるとマフラーが水没してしまい、排気ができなくなるためにエンジンが停止する可能性が高まるので注意が必要です。

家屋倒壊等氾濫想定区域とは

家屋の倒壊・流失をもたらすような堤防決壊が想定される区域です。防災マップでは以下の要因において表記を分けています。**この区域では、早期の立退き避難が必要です。**

●河岸侵食

河岸が削られる事によって家屋倒壊等の危険がある区域

●氾濫流

堤防の決壊等によって川の水が流出し、家屋倒壊等の危険がある区域



ため池ハザード情報について

ため池が決壊した場合に氾濫水が到達すると想定される範囲を示したものです。

地図を見るポイント

- 災害の状況によっては水だけでなく、**土砂や流木**等様々なものが押し流されてくる可能性があります。
- 避難所へ向かうことがかえって危険な場合もあるため、浸水想定区域を避ける行動が必要です。

